

表面処理特集発刊にあたって



取締役 薄板技術部長 神林 郷

鋼材が社会的にも個人生活の中でも確実に用途を拡げ、鉄の文化が進んできています。この中で素材としての鉄の進歩と併せて、表面処理技術が大きな役割を果たしてきました。

自動車用防錆鋼板はその典型でありますし、建材・家庭電器製品・容器等様々な分野において、表面処理が重要技術として登場しました。

これらの技術進歩は経済成長の中であわただしく行われたものも多く、理論的解明が後追いとなるケースも多く見受けられますが、結果としては確実に製品の長寿命化、信頼性向上、省エネルギー、製造作業環境改善その他各種機能の付加、意匠性の向上といった実績をあげています。

新商品開発分野では、5年—10年対応の車体用高防錆鋼板を溶融めっき系と電気めっき系で完成させ国内外の需要にこたえて参りました。一方、建材・家庭電器製品向けには多様なニーズに対応した豊富な商品メニューの充実を図り、容器用材料としては競合他素材に対する競争力のある新商品を開発し商品化を推進しています。

製造技術関係でも数多くの新しい技術が開発・実用化され、高品質の商品を能率良く安定して製造する体制に向けて確かな前進を続けています。

これらの開発を支える技術的バックボーンとして腐食・防食からめっき機構に関わる幅広い基盤的機能の解明研究も深さを増しています。

しかしながら、まだまだ十分に機能を発揮できていない面も感じており、これまで以上に造る側と使う側のコミュニケーションを密にして、投入したリソースが最大限の効果を生み出すよう努力して参りたいと思います。

こうした思いを込めて、できるだけ広範囲に亘り“表面処理技術”並びに、“商品”について特集号としてお届けいたします。

今後とも、皆様のご期待に応えていきたいと存じますので、引き続きご助言、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。